

10期 アクティブシニアをめざす科

～そして生きがい再発見～

日時： 7月7日（木）10時～12時

場所： 豊中市地域共生センター

学習のテーマ：誰もが安心して暮らせるまちづくり

講師： 山野上 隆史先生

（豊中国際交流協会事務局長）

豊中市内で実施したアンケート調査などを踏まえ、次のような点をお話くださいました。

▽コロナ禍のなか日本で暮らす外国人は減った。

国境の壁が低くなり、外国人は増加傾向にあったが、コロナ禍のなか、留学生や働き手の来日が難しくなり、2019年の276万人（総人口の2・5%）をピークに減っている。ただ、豊中市ではいったん減ったが、今は6200人と一番多くなっている。



▽外国人とのコミュニケーションは英語が一番通じるわけではない。

豊中市で暮らす外国人の4割はアジア系。自動翻訳のアプリもあり、英語がいつも通じるわけではない。大事なのは、片言を話せる外国人でもわかる「やさしい日本語」を使うこと。震災で必要な情報が得られず、命を落とした外国人もいた。

①暴風雨→強い雨風、警戒する→気をつける、避難所→逃げる所、といった言い換え②短い文で、簡潔に話し、書くーといったことを注意したい。

▽コロナ禍で外国人が困ったのは、身近な生活情報だった

アンケート調査によると、「緊急事態宣言」や「まん延防止措置」の内容よりも、地元での感染者数や、感染した時にどうしたらいいのか、避難所はどこか、といった情報がなくて困っていた。また、外国人が偏見・差別されているという回答も多かった。地域の防災訓練に外国の人々の参加を促したり、外国の料理や文化の紹介をきっかけにしたりして、多文化共生の取り組みを進めたい。

配布された年次報告書には、日本語学習や多言語相談サービス、若者や親子支援など、多彩な事業に取り組まれており、活発な活動ぶりに感心しました。

《午後の活動報告》

校外学習へ出ました

○第一班

能勢街道を散策

阪急池田駅→呉服座、吉田酒造(国登録有形文化財)→西光寺→辻が丘公園(あわんど池)→星の宮→上池田薬師堂・市指定薬師如来立像→水月公園→石橋商店街→阪急石橋駅

いけだ観光ボランティアガイドの村上さん、城さんの話を聞きながら能勢街道を歩きました。建物、寺社、公園などを見て池田市

や能勢街道の歴史を学びました。暑い日でしたが途中休憩しながら 5km 歩きました。



○第2班

介護予防体操の見学・体験

豊中市新千里南町の市営千里南町住宅の豊千南集会所を訪れ、「ぐんぐん元気塾」の体操に参加しました。椅子にすわりながらの簡単な体操ですが、10人近い高齢者の皆さんと一緒に、約1時間にわたって体を動かしました。



主催する南丘校区福祉委員会の会長で、ONCC理事長でもある猪谷義弘さんのほか福祉委員の赤松さん、近藤さんらも参加。この校区では、子育て相談や「いきいきサロン歌声」「オレンジカフェ」などの取り組みが各集会所で、毎週2,3回活発に続けられているそう

で、その継続的な取り組みが印象的でした。

(担当：脇阪)